

藍はAWAより出でてWORLDへ ～藍染め香港研修～

徳島県立城西高等学校 植物活用科 阿波藍専攻班

1 はじめに

農業教育を実践する本校にとって、「伝統産業」かつ「あわ文化」である「阿波藍」を次世代へと継承することが、私たちの使命である。現在、繁栄を誇っていた「阿波藍」も、後継者不足は甚大である。これらの課題解決として、阿波藍の魅力をSNSを介して発信するだけでなく、藍染め体験を各種イベントで開催することで、「徳島ならではの」魅力を再確認できる機会としてきた。

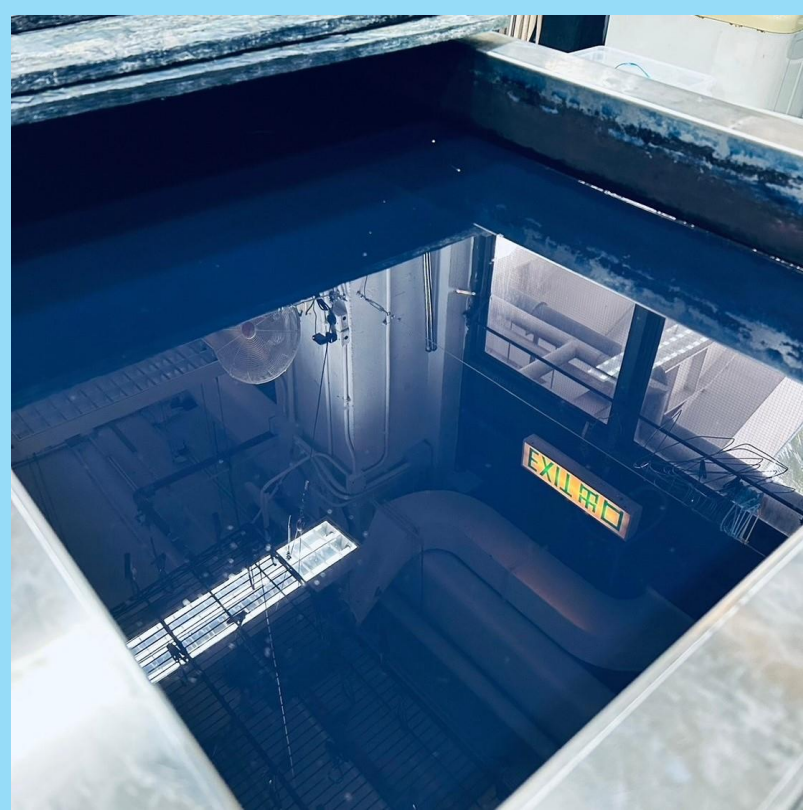
2 香港の染楽工房視察・体験活動

①フードウェイスト(食品廃棄物)を活用した染めを学ぶ。



廃棄されるタマネギの皮を使った染色と触媒(金属)による発色の違いを学んだ。

②Eric氏が使用する沈殿藍と、私たちが使用使用するすくも藍を比較する。



沈殿藍による藍染めでは、動物性繊維(ウールマフラー)もよく染まっていた。

③天然染楽工房「Dyelicious」を訪問し、国際的な視野を養う。



簡単な英語と翻訳アプリを併用し、コミュニケーションを図ることができた。

3 まとめ

- ①フードウェイストによる染色では、本来廃棄されるタマネギ・ニンジン・ビワ等の皮を利用する。
- ②沈殿藍による藍染めは、本校(すくも藍)が苦手とする動物性繊維の染色が可能である。
- ③私たちにとって、初めての海外(香港研修)は、景色や食事等どこをとっても刺激的であった。

4 今後の課題

- ①農業科の強みを生かし、本校で栽培されている農作物によるフードウェイスト染色に挑戦する。
- ②私たちも、阿波藍(タデアイ)から沈殿藍を作ることで、藍染めの幅を広げる。
- ③マルシェ等で海外からの来客に向け、阿波藍についての語学習得に取り組む。